



総務文教常任委員会報告 <福井県福井市>

報告者 総務文教常任委員会委員長 二見裕子

視察内容：小中学校における学力・体力向上の取り組みについて

福井市は、全国学力・学習状況調査において、近年、常に上位を占めているので、どのような取り組みをされているかを聞かせていただいた。視察前に福井市学校教育方針等から、事前に質問事項を提出。

1、SASA(福井県学力調査)とはどのようなものか？

- ・福井県教育総合研究所が主体となって、昭和 26(1951)年から実施
- ・平成 19(2007)年から、小 5、中 2 を対象に実施
(この年から全国学力・学習状況調査がスタート)
- ・毎年 12 月に、小 5、中 2 を対象に実施
[実施教科] 小 5…国、社、算、理
中 2…国、社、数、理、英

- 12 月実施の SASA (福井県学力調査) と 4 月実施の全国学力・学習状況調査の調査結果を授業に活かす PDCA サイクルにして継続的な取り組みを行っている。

2、近年、教員の働き方改革が推進される中、SASA (福井県学力調査) は教員の負担になっていないか。

- ・福井市教職員目的別研修

(主催:福井市教育委員会、福井市校長会・教頭会 共催:福井市社会福祉協議会)

(目的) 今日の教育課程や学校教育の諸問題に即応した教育理念と実施について研修を実施するとともに、豊かな人間性やコミュニケーション能力など総合的な人間力の向上を図ることで、教育の専門職としての力量を高め、小中学校教育の充実に資することを目的とするもの。

(内容) 教職員一人一人が、自分の興味・関心・目的にあった講座を選び研修。

- ・教職大学院 (福井大学) との連携

勤務を続けながら履修

大学教授等による拠点校への支援

補助制度 (大学・県・市)

福井県教育委員会				
課長	局長	課長	係	合議
文部	総務	教育		阪上



- 教員一人一人が、わかる授業を行うことが出来るように、力量向上研修を実施して、教員の主体性を大切にしている。

3、全国の学力調査において常に上位を占めているが、他の自治体とは違う、福井市だけの取り組みがあるのか。

福井市学校教育目標：郷土福井に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成

*家庭・地域や中学校区との連携

縦のつながり…これまで取り組んできた系統性のある連続した学びを展開。

同じ中学校区内にある園小中が一体となり、子どもの学びの連続性、目標・内容の系統性、指導の継続性を踏まえ、意図的・計画的に一貫した取り組みを行う。

横のつながり…地域に根差した学びを展開。

地域を協働した教育を進めることを通して、子どもが地域の一員として、将来にわたって地域づくりに貢献できるようになることを目指す。

「地域に生きる学校づくり推進事業」

予算あり（令和7年度で約2,350万円、1校当たり13～58万円の支援）

・体験活動の充実…わくわく交流デー（小学校体験入学）

教育ウィーク（学校ごとに地域の行事や実情にあわせて、授業参観や部活動見学会、職業体験学習。校外学習、PTA給食試食会などを地域に公開）

・地域の人材・資源の活用の推進…ゲストティーチャーや校内、校外授業ボランティアなど、地域の人材の活用

・園・小・中の交流

・家庭や地域との連携

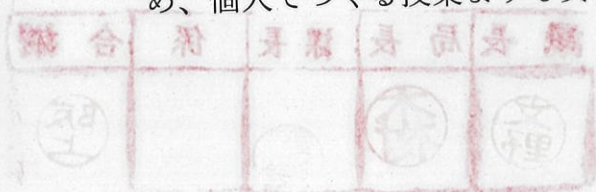
「福井市キャリア教育プログラム」

予算あり（年間約120万円）

●予算を付けて、家庭・地域や中学校区との連携をしやすいようにしている。

4、授業の「縦持ち」とはどのような取り組みなのか。

・中学校で実施。同じ学年を担当する複数の教員で共同して授業づくりを行うため、個人でつくる授業よりも質の高いものができる。



- ・指導方針を統一してから指導にあたるため、担当教員による差が生まれない。
- ・中学校1年から3年までの3年間を見通した教科指導ができる。
- ・他学年の生徒とのつながりが生まれ、学校全体で生徒を育成する意識が強くなる
- ・若い教員にとっては、先輩教員の授業手法を自然に学ぶことができ、効果的にスキルアップを図ることが出来る。
- ・教員のスキルの向上につながる。

5、どのような経緯で2学期制を取り入れたのか。

平成17年は7校、平成19年から全校導入

学びの連続を持たせる。

4月から1学期が始まり、夏休みを挟んで10月に1学期終了。

秋季休業5日間後、2学期開始。12月に冬季休業があり、3月修了。

100日間、100日間で評価

中学校のテスト…通常5回が4回、評価は3回が2回

- 2学期制にすることで、通常のテストが減り、SASAの実施で子どもの学力の把握につながっているのではないかと思います。

6、学習に対する、家庭や地域の取り組みはどうか。

家庭・地域の環境は、祖父母の存在、地域の信頼。

- ・三世代世帯の割合が高い
- ・世帯人員が多い
- ・核家族の割合が低い
- ・共働き世帯が高い
- ・地域の安定（少ない転出入）

地域に生きる学校づくり推進事業により、中学校区との連携がある。

- 安定した地域・家庭があり、学校教育への理解と協力、子どもを見守る多くの目がある。

7、授業以外での取り組みとして「休み時間を利用しての実技指導」とあるが、

どのような指導か。

体力向上の取り組み

福井県全体の取り組みとして、元気パワーアップ作戦

*明確な目標と1年間の見通しを持つために

- ・体力づくり推進計画書（年度はじめ）
- ・体力テスト結果の考察と対策（年度途中）
- ・体力づくり推進報告書（年度末）

*充実した授業

- ・「安全と運動活動量の確保」「技術のポイントを押さえた指導の重視」「ねらいの提示と振り返りの場」を大切にしている。

授業や部活動にプロ選手を講師として招き、一流を体験する機会を提供。

*体力テストの結果にもとづいて、数値目標を設定。

福井市全小学校で業間運動を2時間目終わりの休憩時間を利用して、持久走、縄跳び等を実施。

過度な負担とならない範囲で実施し、自主性を尊重する。

*はぴりゅうスポーツ広場

- ・福井県内の小学生対象
- ・運動をするきっかけとなるように、ちょっとしたすきま時間に取り組めるように、自分の目標に応じてチャレンジ。継続的に取り組める工夫をしている。
- ・家庭にあるタブレット端末やスマートフォン等で記録が入力可能。6年分の記録を蓄積できる。

- 児童の自主性を促し、運動とのかかわり方を教え、「運動がすき」「運動が楽しい」「運動は大切」「進んで運動したい」と感じる取り組みを増やし、運動を通して、達成感や満足感を実感できるように取り組んでいる。

8、全国体力テストにおいて上位であること、学力も上位である事との関係はどのように考えているか。

*地域・家庭・学校・行政のすべてが連携することで、学力・体力向上につながる。

★今回の視察は、福井市（福井県）ならではの取り組みをお聞きし、先生と児童生徒の関係が良く、信頼関係が出来ていることがわかった。地域・家庭・学校・行政のすべてが連携することで、学力・体力向上や不登校児童支援（不登校児童生徒が全国1少ない）につながると参考になった。